

事務事業計画書兼評価表(A表)

1 事務事業に関する基本情報				令和	3	年度
事業番号	837		事業名	若桜鉄道対策費		
担当課	企画課		担当係	若桜鉄道運行対策室	担当者	保木本幸雄
総合計画に最も関連ある施策	施策	3	安心安全な暮らしづくり		連絡先	0858-76-0212
	施策体系	2	道路・交通環境の充実		事業区分	<input type="checkbox"/> 新規
	主な事業	若桜鉄道対策事業				<input checked="" type="checkbox"/> 継続
予算区分	款	2	総務費		事業実施主体	<input checked="" type="checkbox"/> 八頭町
	項	1	総務管理費			<input type="checkbox"/> その他
	目	21	若桜鉄道対策費		計画期間	開始
	事業	837	若桜鉄道対策費			終了
						—

2 事務事業の概要

事業の対象	誰(何)に対してこの事業を行うのか記載 町民、観光客等					
事業の目的	誰(何)をどうするためにこの事業を行うのか記載 安全で安定した若桜鉄道の運行を維持するとともに、鉄道利用客の利便性の向上を図る。また、若桜鉄道を活用した観光振興を図る。					
事業の内容	事業の規模や業務量などを具体的に記載 地域公共交通確保維持改善事業(国庫補助事業)による軌道設備の更新、鉄道施設保守管理業務等による軌道設備の維持管理や駅舎等管理業務。車両の改修。					
事業の手段	どうする方法、手順で事業を進めるのか、具体的に記載 軌道設備の更新や軌道設備の維持管理、車両の改修に関しては、若桜鉄道(株)に業務委託を行い実施する。駅舎等については、町で直接管理する。					
事業の成果到達点	どんな成果を得たいのか、または、何がどうなれば達成か、具体的に記載 安全で安定した鉄道輸送の確保と公共交通網の整備を行うことにより、町民の利便性の向上が図られる。若桜鉄道(株)の黒字化を目指す。					
根拠法令等	1	1. 法令(義務) 2. 法令(任意) 3. 条例 4. 規則・要綱等 5. なし			法令等名→	鉄道事業法

3 活動指標、成果指標

活動指標	A	人	事業の手段を図るものさし 輸送人員			
	B					
	C					
	D					
成果指標	E	千円	事業の成果、到達点を図るものさし 若桜鉄道(株)経営収支			
	F					
	G					
	H					

4 コスト

区分		単位	H30年度	R1年度	R2年度		R3年度		R4年度
			実績	実績	目標	実績	目標	実績	目標
活動指標	A	人	350,881	353,930	370,000	365,721	370,500	377,972	371,000
	B								
	C								
	D								
成果指標	E	千円	268	87	146	△ 2,493	270	△ 3,470	100
	F								
	G								
	H								
トータルコスト		千円	253,006	359,109	161,148	178,044	196,627	187,696	200,643
担当職員数		人	1.0	1.0	1.0	1.00	1.0	1.0	1.0
職員人件費		千円	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000
事業費		千円	245,006	351,109	153,148	170,044	188,627	179,696	192,643
事業費財源内訳	国庫支出金(交付金・補助金)	千円	42,138	114,350	17,460	22,746	22,780	27,139	19,307
	県支出金(交付金・補助金)	千円	15,014	18,273	23,400	22,474	23,422	21,159	22,959
	地方債(借入金)	千円	113,000	137,100	76,500	83,100	86,300	84,000	95,300
	事業収入(使用料・参加費等)	千円	72,665	79,809	34,237	34,364	54,761	46,246	53,754
	一般財源(単町費)	千円	2,189	1,577	1,551	7,360	1,364	1,152	1,323

事務事業計画書兼評価表(B表)

5 実施活動内容・成果(到達点)

令和 3 年度

実施活動内容・成果(到達点)	実施活動内容(具体的に)
	<ul style="list-style-type: none"> ・公有民営化方式により八頭町・若桜町が軌道や車両の保守・維持管理及び設備改良等を実施し、年間を通して安全な旅客輸送を確保した。 ・国からの臨時交付金を活用し、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら利用者が安心安全に利用できる輸送を維持した。 ・若桜鉄道を利用して通学する高校生の通学費助成制度の周知を図り、通学定期利用者の確保に努めた。 ・国の交付金を活用し、年間を通して様々な運行支援策(燃油代補助、運行支援金の交付、観光キャンペーンの実施)を実施、運行ダイヤの維持と輸送人員の確保に務めた。
	成果(具体的に)
	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで町が行ってきた通学定期助成に県の制度を継続して実施され、通学定期利用者が伸び輸送人員は3%程度増加したが、運賃が比較的安い区間の輸送増となったため、旅客収入の増加は前年並みとなった。 ・情勢の変動による資機材費の高騰などにより、企業努力による経費削減の成果を出すことが難しい中、乗客の利便性や現行のダイヤを維持するために新たな運転士等の採用と育成を図った。 ・新型コロナウイルス感染症の影響により公共交通の利用が減少の一途をたどる中、最終的な決算では347万円余りのマイナスとなり、2期連続の赤字となった。

6 事務事業の評価

評価項目	評価点	点数	チェックポイント	判断理由・評価コメント(具体的に記入のこと)
必要性 (町民ニーズ)	20	20	①必要性が高い	・通学や通勤、また、高齢者の方など生活における移動手段の確保を図るため、大量輸送のできる公共交通としての鉄道の維持・確保は必要である。
		13	②どちらかと言えば必要性がある	
		7	③必要性が低い	
		0	④必要性がない	
妥当性 (町が行わなければならないか)	20	20	①町が行わないといけない	・八頭町は、第三種鉄道事業者として鉄道の安全輸送を確保する必要があるため、妥当性は高い。
		13	②どちらかと言えば町が実施	
		7	③妥当性が低い	
		0	④妥当性がない	
効率性 (コスト削減の余地は無い)	13	20	①効率的である	・鉄道施設整備の施工業者は一般の公共工事に比べて限定されるため、コストが割高となる傾向にあるが、委託先の若桜鉄道(株)においては修繕・工事の発注に際して指名競争を実施しており、価格の公平性を確保しているほか、一定の修繕、補修などを直営で実施しており、経費削減に努めている。
		13	②どちらかと言えば効率的である	
		7	③どちらかと言えば非効率的である	
		0	④非効率的である	
緊急性 (他事業に優先し実施する必要があるか)	20	20	①緊急性が高い	・地域住民の生活交通を確保するとともに、観光振興による地域活性化を図るためにも、早急な対応が必要である。
		13	②比較的緊急性がある	
		7	③緊急性が低い	
		0	④緊急性がない	
成果 (目的の達成状況)	7	20	①成果が上がっている	・鉄道の安全輸送は維持することができたが、新型コロナウイルス感染症の影響は大きく、今後も若桜鉄道の乗車人員や旅客収入を維持していくためには一層の営業努力が必要である。
		13	②どちらかと言えば上がっている	
		7	③どちらかと言えば上がっていない	
		0	④成果が上がっていない	
合計	80			

7 町の方向性・方針

事業の方向性	問題点及び今後の課題・方向性
1 拡充する	(事業活動に当たり、一番の問題点として捉えていること。重点的に手当てする事柄、改善点、工夫したい箇所) ・運転士や指令業務、保線業務にあたる職員の高齢化が進み、次世代職員の育成が急務である。 ・新型コロナウイルス感染症の影響により鉄道関連イベントが減少している中、営業外収益を確保するため積極的に物販やPRイベントに参加することが必要である。 (上記問題点を解決していくため、次年度どんな活動を展開していくのか) ・計画的な職員採用と外部委託することができる事業の精査と洗い出しを行うことで、より効率的な会社運営を図る。 ・都市部で実施するイベント等に積極的に参加し、若桜鉄道のPRやグッズ販売を行い、営業外収益の確保を図る。 ・第3種鉄道事業者として、補助事業を活用した修繕計画等を第2種若桜鉄道と共有し効率的な保線業務を行う。
2 改善・効率化し継続	
3 現状維持	
4 見直しの上縮小する	
5 終期設定し終了	
6 廃止	